

いつもたいへんお世話になっております。

近年、大腸癌の治療成績が改善しています。様々な要因がありますが、遠隔転移に対する治療成績が改善していることが挙げられます。遠隔転移性部位としては肝転移が最も多いです。肝転移切除後の5年生存率は、40-60%であり、切除により根治も期待できます。宇治徳洲会病院では、大腸癌肝転移に対する集学的治療を積極的に行なっています。肝胆膵外科のみならず、消化器外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線科、病理診断科と緊密な連携を取りながら、さらなる高度医療を提供できるよう尽力して参ります。

肝胆膵外科部長
野見 武男



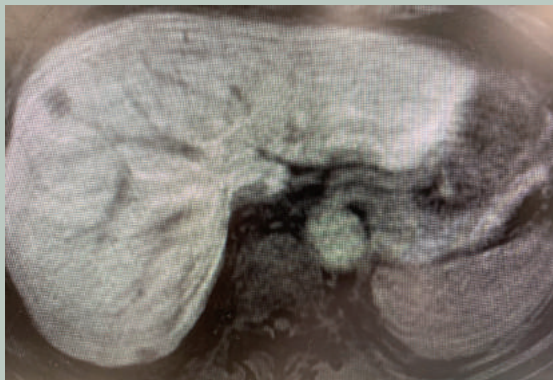
Kan Tan Sui

今月の症例

下行結腸癌 肝転移

症例は70代男性。

イレウスにて発症した下行結腸癌の症例で、肝S5に単発の肝転移を認めました。内視鏡下にステント留置の後、腹腔鏡下に結腸切除、肝転移切除を行いました。結腸切除は、腹腔鏡下大腸切除手術の第一人者である消化器外科部長 長山聡が執刀を行いました。本症例のように、肝転移を伴う大腸癌手術において、腹腔鏡下に同時切除を行うことで、手術侵襲を最小限にすることができると考えています。



▲ 肝S5に単発の肝転移を認めました。



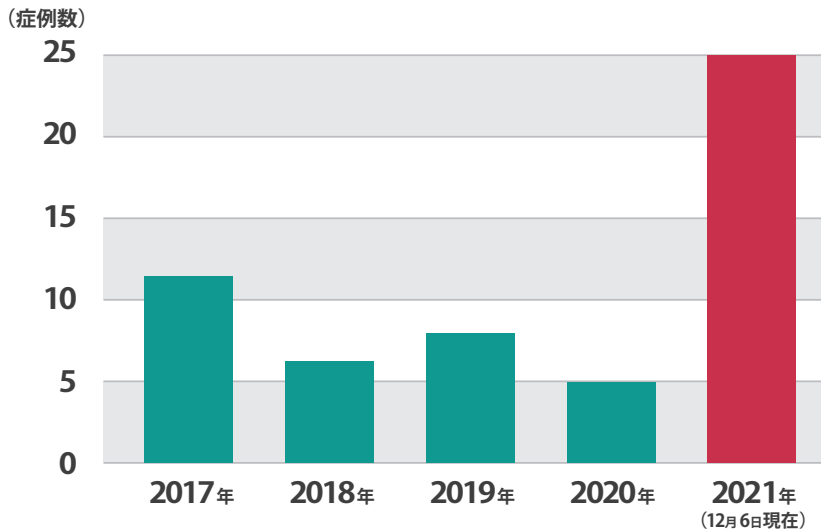
▲ 下行結腸癌の切除標本

裏面へつづく

肝臓膵臓切除症例数

本年7月より宇治徳洲会病院肝胆膵外科に赴任してから、多くの肝胆膵症例をご紹介いただきました。深く感謝申し上げます。2021年度は、肝切除25例、膵切除17例でこれまでで最も多い症例数になっています。2022年度は、さらなる高度医療を提供できるようチーム一丸となり努力して参ります。

肝切除症例数



膵切除症例数

